

平成 29 年度小さな拠点・地域運営組織 中国・四国ブロック研修会 開催概要

(1) 全体概要

- ・ 日 時：平成 30 年 1 月 10 日（水）13:30～16:30
- ・ 会 場：岡山市勤労者福祉会館 5F 体育集会室
- ・ 出席者：91 名（地方自治体職員・中間支援者等 74 名、リーダー等地域住民 17 名）

(2) 中国・四国ブロックの特徴（他ブロックとの差別化）

- ・ 中国・四国では平成 27 年より小規模多機能自治推進ネットワーク会議「中国ブロック会議」を行っており、その会員も多い。地域運営組織の体制づくりを進めている自治体が多く、またその進捗状況や取り組むうえでの課題が多様。
- ・ 一方、参加者の中には、これから始めようとする自治体も 4 割程度。
⇒事前アンケートを実施し、進捗フェーズを聞き、進捗度に応じて 4～7 名の班に分け、情報共有や意見交換ができるようにした。

■ ■ 事前アンケートのフェーズ5 ■ ■	
1	行政側、地域側も地域運営組織や小規模多機能自治（以下、仕組み）の推進が出来ていない
2	行政側の庁内合意形成は出来つつあるが、地域側の仕組みへの理解と組織化が進んでいない
3	地域側で仕組みへの理解と組織化は進んでいるが、行政側の体制が十分ではない
4	行政・地域双方とも仕組みへの理解が進み、モデル的な取り組みが始まっている
5	行政・地域双方で取り組みが進んでおり、条例などの制度設置と本格導入をする段階

(3) プログラム

時 間	内 容	講 師
13:30～13:35 (5 分)	開 会	
13:35～13:50 (15 分)	みんなの集落研究所が考える地域組織像の提示と議論	石原 達也(NPO 法人みんなの集落研究所 代表執行役)
13:50～14:40 (50 分)	トークセッション	石田 りゑ氏・高橋 理佳氏 (岡山県津山市地域振興部協働推進室) 板持 周治氏 (島根県雲南市政策企画部地域振興課)
14:35～15:40 (説明記入:20 分 共有:45 分)	意見交換	進行：石原 達也(NPO 法人みんなの集落研究所 代表執行役) ※地域運営組織体制づくりの進捗度に応じて 4～7 名の班に分かれて実施。 [別紙班分け参照]
15:40～15:57 (17 分)	休 憩	
15:57～16:12 (15 分)	『小規模多機能自治を促す施策調査結果』について	板持 周治氏(島根県雲南市政策企画部地域振興課)

16:12～16:28 (16分)	意見交換	進行：石原 達也(NPO 法人みんなの集落研究所 代表執行役) ※4～7名の班に分かれて実施
16:30～16:40 (10分)	閉会・アンケート記入	

(4) 研修結果

1) トークセッション

【みんなの集落研究所が考える地域組織像の提示と議論】

トークセッションに先立ち、みんなの集落研究所より、岡山県内の地域運営組織の仕組みづくりを支援する中で生じてきた必要な要素とその内容や取り組むうえでの課題など、論点整理を行った。

要素	主な内容	主な課題
組織	概ね小学校区や大字、旧村、旧町などの範囲で、地縁組織、目的型組織、属性別組織が一体となって、地域の課題解決のために組織をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・連合町内会、コミュニティハウス等の管理委託先や移譲先などの既存組織との整理(物理、感情)。 ・旧来組織の意識改革か、新組織か。 ・町内会などの範囲をどこで線引か。 ・合併により範囲や組織が違うことの整理。 ・目的型や属性別を含めるか否か。
拠点	組織の事務所及び主な活動場所としてエリア内の集会可能な場所を拠点として提供する。(占有許可や指定管理など)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の条例改正、所轄移転。 ・施設の現状関係者の既得権への配慮。 ・耐震や建築年などの考慮と補修の財源確保。 ・合併による建物の配置度の差の整理。 ・調理や宿泊など多様な事業に対応するルール。
資金	組織が計画した事業・活動に対して活用可能な補助金などを提供する。(これまで地域組織支払われていた補助金を統合し一括交付など)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金統合の場合、内部の部署調整。 ・人口割や世帯割りなど人口と地域差への配慮。 ・自由度確保と監査や書類の複雑さのバランス。 ・継続可能な財源としての予算立案。 ・人件費における内部支払か外部支払かの整理。
ルール	自治体の施策の中で組織の位置づけや役割、その支援制度など、ルールと計画を位置づける。(条例、指針、ガイドライン、総合計画など)	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内において機能するルールの整備。 ・進んでいくための計画の立案と評価方法の合意。 ・現政権の意志に依存しないルールづくり。 ・責任だけでなく権限を委譲できる内容。 ・庁内の体制や各課の関りを定義できる内容。
支援	組織づくりや計画づくりなどの初動期の支援と、その後の事業実施に関する支援と自主的な財源確保に関する支援、行政庁内とつなぐ支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・支所と本庁と分担、地域担当制配置の検討。 ・事務やバックオフィスに関する支援や統合検討。 ・集落支援員制度などの事業の活用検討。 ・福祉、防災、NPO等の施策や専門職との整理。 ・ふるさと納税の活用や、SIBなどの導入検討。

【津山市における小さな拠点・地域運営組織の取組】

資料のとおり

2) 意見交換：参加者による情報交換(1)

進捗度合いの近い市町村でグループになり、庁内や地域で小さな拠点・地域運営組織や小規模多機能自治を推進する上での理想像や疑問点を情報交換。4～7人程度の12班に別れ、課題分類シートを使いながら整理。①仕組み②組織③拠点④お金(関係課)⑤支援の項目ごとに課題を整理し、班内持ち回りで発表・共有。相互に付箋に質問や助言を書き出し、グループ内で共有した。



[使用した様式]

論点	現状可能性	課題	対応案
仕組み			
組織			
拠点			
お金 (関係課)			
支援			

3) 『小規模多機能自治を促す施策調査結果』について
資料のとおり

4) 意見交換：参加者による情報交換(2)

成果目標とタスクを整理し、今後2年間のスケジュールを各々作成した

[使用した様式]



仕組み	2018年度に どこまで	2019年度に どこまで
組織		
拠点		
お金		
支援		

=====
(1) 地域リーダー対応プログラム

時間	内容	講師
13:30-13:35 (5分)	開会挨拶 研修会趣旨説明	
13:35-13:50 (15分)	小規模多機能自治とは -岡山県津山市の事例紹介 -島根県雲南市の地域自主組織 3つのポイント	三村 雅彦氏(特定非営利活動法人みんなの集落研究所)
13:50-14:20 (30分)	アイスブレイク -自己紹介ワーク -グループ内共有	同上
14:20-14:55 (35分)	参加者による情報交換 part1	同上
14:55-14:50 (15分)	休憩	
15:10-15:35 (45分)	参加者による情報交換 part2	同上

15:35-15:45 (10分)	休憩	
15:45-16:05 (20分)	岡山県高梁市宇治の事例紹介	同上
16:05-16:25 (20分)	NPO 法人きらりよしじまネットワーク の事例紹介	ランドブレイン (株) 執行役員 吉戸 勝氏
16:25-16:30 (5分)	研修会の感想記入 ①今日の気づきや感想 ②地域で取り入れたい、取組みたいこと	三村 雅彦氏(特定非営利活動法人みんなの集落研究所)
16:30-16:40 (10分)	閉会挨拶	

(2) 地域リーダー研修結果

1) 小規模多機能自治 岡山県津山市の事例紹介

小規模多機能自治に取り組んでいる地域の事例として、岡山県津山市高倉・城西・田邑の3協議会の活動を紹介した。高倉地区ではプレーパークや公民館で長期休暇中の子どもたちを受け入れて高倉ならでの体験や勉強をサポートする「フリー塾」といった子どもを中心とした活動紹介、城西地区では乳幼児期の子どもと母親の居場所づくりの子育てサロン「さくらんぼ」や高齢者の日常生活の困りごとを支援する「城西おたすけ隊」の事例紹介を行った。また、高倉地区や城西地区のようにすでに活動が進んでいる地域だけでなく、昨年度に協議会を立ち上げ、中学生以上全員に住民アンケートを実施し、住民のニーズと結び付けた活動が実施できるようにと現在作戦会議を重ねている田邑地区の事例紹介をした。



その後、前段で説明した津山市の事例のように、地域の実情に合わせた取り組みを各地域で主体に展開する「小規模多機能自治」の目的と必要性を改めて説明し、今回の研修会に臨む視点を再確認した。

2) アイスブレイク (自己紹介ワーク)

アイスブレイクでは、参加者の最初の緊張をほぐすため、A3用紙を4つ折りにし上記の項目を個人個人で記入してもらい、5～6人のグループを作り共有を行った。グループ内共有後は、自己紹介ワークの趣旨と下段の「10年前は(どこ)で(なに)をしていました」の項目が定年男性を輝かせる機会になること、そして「趣味・特技」の欄は人資源の発掘につながることを紹介した。

ご所属 お名前	今日の勉強会に 来る時の気分
10年前は(どこ)で (なに)をしてました	趣味・特技

3) 参加者による情報交換 part 1 「わたしのまち」で守りたい モノ・ヒト・コトとその理由

活動を各協議会でしていく上で核となる「モノ」「ヒト」「コト」をA3用紙に1つずつ書いて頂き、5～6人のグループで共有した。グループ内共有では小学校の存続、鳥獣被害の増加を食い止める、地域の長年続けられている歴史ある行事や技の伝承、協議会活動に若い人に入ってもらいたい、婦人会や地域の女性グループに協議会活動に入っ

守りたい・よくしたい	その理由

ていただき女性目線での活動のアイデアが欲しいとの意見が多くあがった。

4) 参加者による情報交換 part2 「わたしのまち」で守りたい モノ・ヒト・コト 過去現在未来

続いて part 1 で出した意見が、「過去」がどのような様子や活動がされていたのか、過去が「現在」どのような状況なのか、そして現状の活動や事柄がどのように変化してほしいのかについて、「未来（理想）」の3項目をA3用紙に1人ずつ記入し、テーブルの隣の方と共有をした。ここでも特に次世代の育成や交代、先代が守ってきたものを守り続ける、会長やリーダーシップを発揮できる人材を見つけるといった言葉が多く上がった。

過去	現在	未来（理想）

結果的に南部町の地域振興協議会では、来年度に5年間の地域計画の見直しをする時期が重なったこともあり、協議会活動を整理するきっかけになったとの声があった。

5) 岡山県高梁市宇治地区の事例紹介

南部町の自治体職員から、「現在の協議会活動では行事や事業が数多くあり見直す必要があると感じている。行事の仕分けを行った事例を紹介していただくことは可能か」という意見をいただき、岡山県高梁市宇治地区の事例紹介を行った。

宇治地区の事例紹介では、高齢化と人口減少が進む中で行事の数が減らず、メンバーが疲弊していたが、中学生以上全員アンケートを実施し、行事の見直しと仕分けを住民自らが行い、アンケート結果から宇治町に本当に必要な活動を展開した部分を重点的に紹介した。

今回の研修会参加者からのアンケートでは、「宇治地区の事例が大変参考になった」「住民アンケートについて自分の協議会でも検討してみたい」「事業等を数多くすれば良いだけでなく、無駄な事業は取りやめることも考えていくようにしたい」との意見が多くあり、宇治地区の事例紹介をしたことにある程度の成果があったことが分かった。

6) 山形県川西町吉島地区 NPO 法人きらりよしじまネットワークの事例紹介

南部町の自治体職員から行事仕分けの事例紹介と合わせて、次世代の活動を担う若者の地域参画を実践している事例を紹介してもらいたいとの要望があり、山形県川西町吉島地区の「NPO 法人きらりよしじまネットワーク」の事例を紹介した。